

大原野 もぐもぐ ライフ

西京区の三分の一を占める広大な大原野地域。たくさんいいところがあるこの地域で私たちが魅力的と感じたのは、住んでいる人たちのあたたかさやゆったりとしたライフスタイル、そして豊かな自然です。今回は「食」をテーマに自然が与えてくれるおいしい食材や、意外な場所にある隠れた名店などを取材し、「食」に関わっている人たちの思いやゆっくりと過ぎていく時間の魅力を伝えるMAPを作りました。知っているところ、知らないところ。広すぎて中々見つけられない大原野の魅力を存分にお楽し下さい。





大原野の稲刈り！ 体験取材へ



人の(わ)でつくる
大原野

編集後記

一大原野の風土と食との関わりを深く知るため、私たちは実際に稲刈りの現場へと取材に向かいました。



大原野では広い耕作地五㌶をしてお米作りが盛んに行われています。私たちは大原野の自治連合会長である富坂さんのお米作りを取材させて頂きました。稲刈りでは稲刈りを受託した受託組合の大原野コンバインを取材させて頂きました。稲刈りでは稲刈りが実った稻を刈り取って脱穀し、もみ（実の部分）と藁とに分けました。会長は和アールほどの田んぼで自家用の飯糰のみを作っているそうです。今回取材した

田んぼで育っていたのは、ヒノヒカリという品種のお米。ちなみに大原野全体では、コシヒカリ10%、キヌヒカリ60%、ヒノヒカリ30%の割合でお米が生産されています。しかしどの土地でもおいしいお米作りが出来るとは限りません。おいしいお米作りに適した環境の条件のほど、まず天気がよく寒暖の差が激しいこと。それに加えてなく平らな土地であり水が豊かなことが挙げられます。その点で大原野は、寒暖差の激しい京都特有の気候や広大な土地、そして小畠川、善峰（よしみね）川という二つの川の豊富な水資源があり、お米作りには適した土地といえます。このように大原野はお米作りの環境が整っているので田んぼが減る事なく、またこの環境は大原野の生きる事です。

／大原野の一番の魅力とは／
由緒あるお寺も多く、自然も豊かで魅力いっぱいの大原野の、一番の魅力はなんですか？と自治連合会長の富坂さんに尋ねると、「大原野は良いところだらけな地域だけど、やっぱりなんといっても人情があるところやね。あつたかみがあって、何かしたいと思ったときにすぐ駆けつけてくれる、人情あふれる地域ですわ。」と笑顔で答えて下さいました。その言葉に取材班も納得の一言。今回の取材も多くがとびこみだったにも関わらず、みなさん快く取材に協力して下さり、また、この地域をとても愛しておられるのがひしむと伝わってきました。たくさん的人が協力しあっている大原野。これからもあたたかい人の「わ」で素敵なお原野をつくっていって下さい！

この新聞を編集するにあたって、大原野地域には由緒ある神社やたけのこなどの名産品、豊かな自然など魅力的なものが多く、中々その全てを紹介しきれない」と悩みました。私たちが取材を始めるにあたって「食」というテーマを設定し進めたところ、大原野の一番の魅力は、有名な神社でも持

のゆったりまとまりとした何にも形容しがたいライフスタイルと、強い地元愛でした。そこで私たちは、大原野独特の空気感を崩すことなく、普段新聞を読まない人に手にとつてもらえるような、デザインを目指して編集しました。この誌面を通じてあたかいい大原野のよさを感じて頂けたら幸いです。最後に、ご協力して下さったお店の方々や自治会の方々に深くお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

京都市立芸術大学
ビジュアルデザイン専攻
大原野取材班 一同

一取材を終えてー

取材班に、稲刈りの感想をインタビュー

一稲刈りはどうでした？

新井貴子さん
田んぼで育ったことなど
かってんけど、機械が子悪
取材にきれいやった。

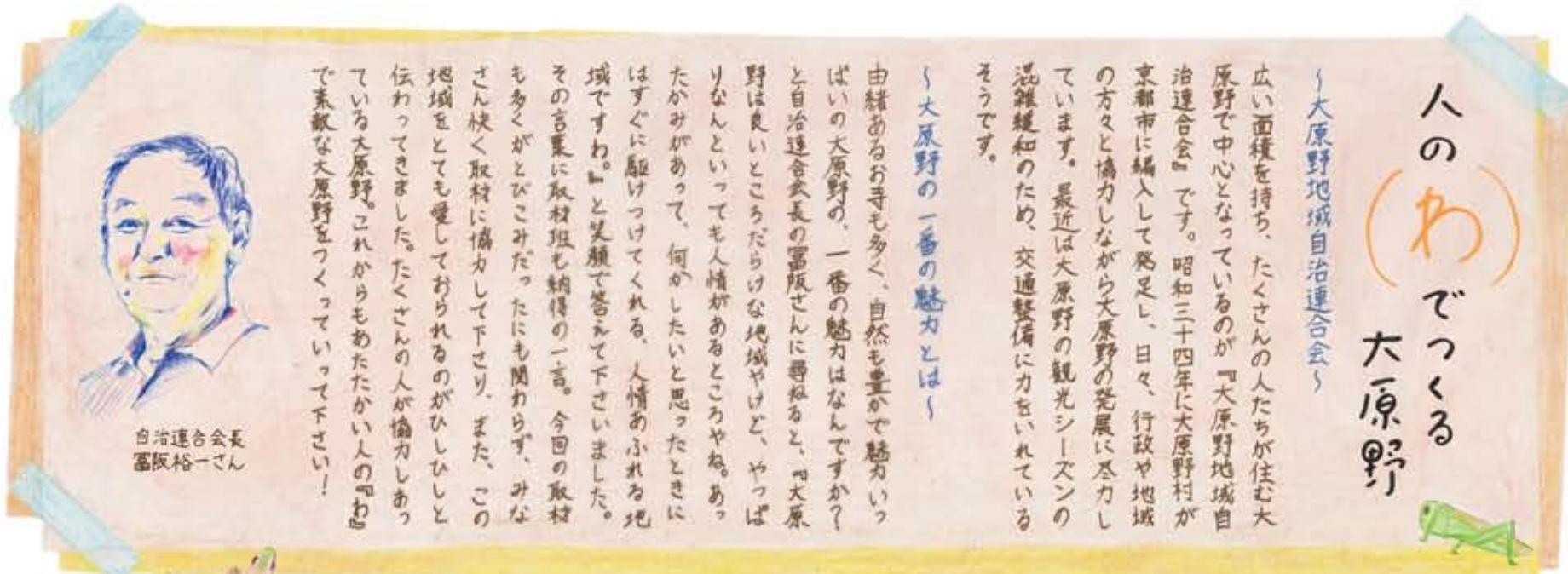
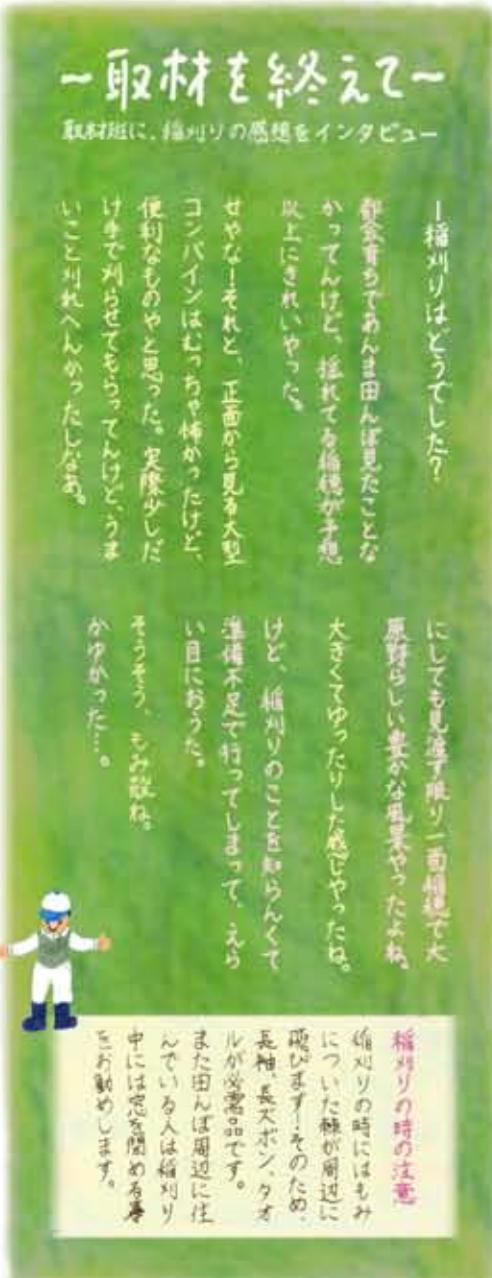
セやな！それと、正面から見る大型
コンバインはむっちゃ怖かったけど、
自分で刈らせてもらつてみけど、うま
いこと刈れへんかったishな。

にしても見渡す限り一面開拓で大
農地らしい豊かな風景やったよね。

稲刈りの時の注意
稲刈りの時にはもみ
について種が周辺に
飛びます。そのため
長袖、長ズボン、クオ
ルが必要品です。
また田んぼ周辺には
中には泥を閉めると
泥を閉めます。

自治連合会会長
富坂裕一さん

地元をとても愛しておられるのがひしむと
伝わってきました。たくさんの人人が協力しあっ
ている大原野。これからもあたたかい人の「わ」
で素敵なお原野をつくっていって下さい！



編集後記

発行者：大原野地域自治連合会
編集デザイン：京都市立芸術大学ビジュアルデザイン専攻斗生